

前回（通算第3・4回）推進会議のレビュー（開催概要）
鉄道・運輸機構等との協議結果について

1. 第3・4回北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議開催概要

- 令和3年度第1回（通算第3回）推進会議は、駅舎出入口および駅舎内レイアウト、駅周辺駐車場等、駅舎デザインコンセプトについて意見交換を行った。
- 令和3年度第2回（通算第4回）推進会議については、書面にて開催。

推進会議	時期	主な議題
令和3年度第1回 （通算第3回）	令和3年8月20日	<ul style="list-style-type: none">・ 駅舎出入口位置について・ トイレ、待合室の位置について・ 駐車場について・ デザインコンセプトについて
令和3年度第2回 （通算第4回）	令和4年1月 （書面開催）	<ul style="list-style-type: none">・ デザインコンセプト要望書における意見の有無などについて

2. 第3回推進会議の主な確認事項および意見

① 駅舎出入口位置

- ・利用者の利便性を十分に考慮し、駅舎出入口を札幌側へ決定。

② トイレ・待合室位置

- ・改札の「外」に配置。改札の「中」でもトイレを利用できるように関係機関と協議。

③ 駐車場

- ・高架下を利用したい。屋外駐車場は除雪スペースを確保してほしい。一般駐車場とバス待機場を一緒にしない方が安全ではないか。タクシープールは必要。

④ 防音壁透明化

- ・透明化にしたいが、設置や更新費用は自治体負担。

⑤ デザインコンセプトについて

- ・事前アンケートによって、デザインコンセプトとりまとめ。

⑥ 町長一任事項

- ・高架下利用、駐車場、防音壁透明化（財政負担に係るもの）

3. 第4回推進会議の内容について

表. デザインコンセプト決定までの経緯

	日にち	内 容
①	令和3年8月20日	第3回会議においてデザインコンセプトについて議論
②	令和3年8月20日～	第3回会議における審議内容を基に骨子案を調整
③	令和3年11月1日～30日	骨子案を町広報およびHPで町民から意見公募
④	令和3年12月	事務局にて再検討、デザインコンセプト（素案）を策定
⑤	令和4年1月	第4回会議（書面開催）で素案に対する意見聴取 （複数意見はあったものの、素案の修正無し、と判断）
⑥	令和4年2月10日	総務経済常任委員会（議会）へ報告
⑦	令和4年2月22日	鉄道・運輸機構へデザインコンセプト要望書を提出
⑧	令和4年2月22日	町HPにてデザインコンセプト要望の内容掲載
⑨	令和4年4月	4月広報にて内容掲載

4. デザインコンセプト要望書について（一部抜粋）

北海道新幹線新八雲（仮称）駅舎デザインコンセプト

北海道新幹線新八雲（仮称）駅 デザインコンセプト 要 望 書



令和4年2月

北海道 二海郡 八雲町

北海道新幹線新八雲（仮称）駅舎の整備について

北海道新幹線新函館北斗・札幌間の整備については、令和12年度末の開業に向けご尽力賜り感謝申し上げます。

また、本町において、新幹線体験乗車ツアーを催した際、定員を大幅に超える申込みがあり、昨年については北海道新幹線開業5周年という記念の年となり、町民の新八雲（仮称）駅開業への期待も高まっております。

本町におきましては、平成17年に旧八雲町と旧熊石町が合併、日本で唯一の太平洋と日本海の二つの海を持つまち、二海郡八雲町として誕生しました。本町は、函館、室蘭より70km圏内に位置し、道史と道南、太平洋と日本海を結ぶ国道が通り、北海道縦貫自動車道八雲ICが在するなど交通の要衝となっており、国、北海道の行政機関の立地や商業の集積、八雲総合病院を中心とした地域医療により、広域的な中核都市としての役割を担っております。

新幹線新八雲（仮称）駅に係っては、平成12年3月、「新幹線八雲駅を核とした地域振興計画」の策定を皮切りに平成18年12月、「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備構想」、平成28年2月、「北海道新幹線新八雲（仮称）駅等整備方針」、そして平成31年3月には「北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備基本計画」を策定しました。この基本計画では、道南北部の広域連携拠点を基本理念とし、駅周辺の風景に調和した「牧場の中にある駅」をキーワードに、土地利用計画、交通計画及び各種施設のデザイン計画等を含めた駅周辺地区の整備基本計画の具体的な方向性を示すこととしております。

このような状況の中、新八雲（仮称）駅は、太平洋と日本海の双方にまたがる本町の立地特性がより効果的に発揮され、医療、経済、産業など、より広域的、持続的な活性化に資するとともに、これからの施策を展開するうえで重要な役割を果たすことになるものであり、本町を象徴する駅となるよう大きく期待されております。

本町への来訪者が、八雲町へ来て良かった、全国的に見ても稀有な駅がある町、あえて降りたくなる町、また、再び八雲町を訪れたいと思ってもらえる。そして、町民が交流し、効率的かつ広域的な活動のスタート地点となる駅になることを願い、新八雲（仮称）駅舎のデザインコンセプトを別紙のとおり取りまとめましたので、駅舎の建築にあたっては、その内容を反映して下さるようお願い申し上げます。

令和4年2月

八雲町長 岩村 克昭

牧場の中にある駅

～二つの海をもつ八雲の大地にたつ、牧歌的風景に調和したシンプルな駅～

附帯意見

- ・道南木材をふんだんに使用した温もりを感じ、木漏れ日が溢れる駅
- ・伝統的な牛舎を彷彿させ、北海道の大地を感じる駅
- ・駅舎内から広い視野で見渡せるガラス張りの駅
- ・シンプルで周囲の牧歌的風景に溶け込む駅

時代感	イメージ	形状	色合い	その他
伝統的	落ち着いた	シャープ	黄色	周囲の景観に溶け込む (目立たなくて良い)
近代的	親しみやすい	直線的	緑色	開放感溢れる
	故郷を感じる	シンプル	灰色	窓が大きく広い
	四季を感じる	スリム	濃灰色	サケが上る川が見える
	温もりのある			道南木材の使用
				バリアフリーに配慮

上表は、町内各産業団体、一般公募から組織された北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備推進会議の委員から「牧歌的風景」「牧場の中にある駅」とはどういったイメージを持っているかアンケートを取った結果でありますので、ご参考いただければと存じます。

なお、各委員からのアンケート回答（原文のまま）についても次ページに掲載しておりますので、併せてご参考いただければと存じます。

5. 鉄道・運輸機構等との協議結果について

- 駅舎内トイレについて、機構とJR北海道で協議を進めている。北海道新幹線については、改札の「外側」から入っていける形の計画が一般的。（機構）
 - トイレについて具体的な計画はない。機構が整備する範囲の中でしか、計画は考えていない。基本的には、木古内駅、奥津軽いまべつ駅と同じように新八雲（仮称）駅は改札の「外側」に設置する形になると考えている（JR北海道）
- ➡改札の「内側」にもトイレを設定することについて、断念せざるを得ないと判断した。